

日本三大道場のひとつ・宮島弥山

宮島は昔から**神の島**と崇められています。巖島神社の創建は、社伝によれば飛鳥時代の推古天皇の即位元年(593)とされ、仏教道場の創建は大同元年(806)に唐より帰朝の途次弥山において**求聞持くもんじのの修法しゅうほう**が弘法大師により行われたことに始まります。

これは全山うっそうたる樹木に覆われ、山頂には巨岩が重層している自然があった故と思われます。弥山は今でも道場であり、阿波の大龍嶽と土佐の室戸岬と共に真言密教の日本三大道場の一つに数えられています。

平安時代末期になって平清盛が巖島大明神を一門の守護神として尊崇して以来、弥山道場を所管する真言宗大聖院の座主の名が諸書に書かれています。

{仁平二年(1152)大聖院の座主が巖島神社を修復したとの記載があります}

宮島の周囲は約 30km、弥山の標高は 535m で頂上付近には奇岩怪石や大小さまざまな岩が古色を帯びて連なっています。天候が良ければロープウエーの終点獅子岩駅と弥山頂上の展望台から周囲の島々を一望できる素晴らしい眺めです。

弥山散策のルートは、宮島棧橋から島内バスで巖島神社裏まで、岩惣横から無料バスでロープウエー乗車口、獅子岩駅下車、弥山本堂、霊火堂、三鬼堂、文殊堂と観音堂、不動岩と毘沙門堂、弥山頂上展望台、干満岩、舟岩、大日堂、水掛け地蔵、獅子岩駅まで徒歩 1km、紅葉谷駅下車後徒歩で四ノ宮神社、商店街、宮島棧橋の予定です。



1. 獅子岩駅

昔は獅子岩の近くは野生の猿が多く、食べ物が少ないこともあり、観光客の持ち物を奪うことが良くありました。現在猿を捕獲してモンキー・サンターに移していますので余り目に付かないようです。尾根伝いに弥山本堂まで 1km 歩くのでその前に眺望を楽しんでください。弥山本堂に向かう中間点に天然記念物彌山原始林の石碑があり紅葉谷に下りる分岐点です。

弥山本堂に着く直前に左下にあかいどう関伽井堂があります。内部に底のない壺瓶が埋められ少し甘みを含んだ水が湧き出ています。この霊水は弘法大師が求聞持の秘法を修得中に明星水として仏殿に供えた祈禱水で、如何なる干ばつの時でも枯れることが無いと伝えられています。

2. 弥山本堂

平安時代の大同元年(806)、唐で修業した三十二歳の弘法大師が山頂にしゃくじょう錫杖を留め厳しく辛いくもんじ求聞持の秘法を修得した道場です。

この道場は現在でも僧侶の修行の場として使用されています。虚空蔵菩薩が左手で捧げている如意宝珠が榎の実であることから、弘法大師はくもんじ求聞持の秘法を得るために必要なものは全て榎の木を利用しました。幸いにも榎の木は三鬼堂の横の階段近くにあり必要なものは全て揃う環境にありました。



くもんじ求聞持修法とは、慈悲とけいち慧智の廣大無辺なることを象徴した虚空蔵菩薩に百日間、百万遍の真言を唱えて強固な記憶力を得るための真言行者の秘密練行法です。

弥山本堂

平清盛の三男宗盛寄進したと言われる大梵鐘（国の重要文化財）が弥山本堂内にあり、伊都岐島すいせいじ弥山水精寺という後刻銘があることで有名です。この鐘は島内で鑄造されました。

弥山本堂の横に苔むした八重の梅があり（老木のため枯れかけています）これが弥山七不思議の一つで錫杖梅です。その昔弘法大師が立て掛けた杖が根ずき梅の木になったと伝えられています。弥山に不吉な出来事が起こると梅の花が咲かない不思議な木です。

平成十六年秋の台風十六号により枝の木が折れて今は若い芽が出て生き残っています。

（麓には古刹、多喜山水精寺・大聖院があり弥山本堂、霊火堂を管理しています）

3) 消えずの靈火堂

堂内には**不動明王**が祀られ大同元年(806)に焚かれた護摩の火が、1200年以上に渡ってその護摩の火が燃え続けています。

この靈火は山形の山寺立石寺、京都の比叡山延暦寺と共に日本三大不滅の火言われています。明治三十四年(1901)に八幡製鉄所の溶鉱炉の種火とされ、広島市の平和公園の「**平和のともしび**」の火種にも採火されました。

大茶釜の靈水は万病に効くと昔から言い伝えられています。昔は本堂内にありましたが、度重なる火災で消失して昭和二十五年から現在の位置にあります。この靈火堂は平成十七年((2005)五月にして消失して昨年再建されました。

現在の釜は四代目で二代目の釜は民俗資料館に保管されています。



ふしょうれいかどう
不灭霊火堂

4) 三鬼堂

現在の御山神社のことを昔**三鬼堂**と呼び人々に信仰されていましたが、明治二年(1869)の神仏分離政策に従い現在の場所に設置して大聖院が管理しています。

弥山本堂や三鬼堂の額は伊藤博文の直筆です。昔弥山で行われていた**火渡り神事**は平成三年(1991)の台風被害以後、麓の大聖院の広場で四月十五日、十一月十五日の二回行っています。

正式な呼び名は三鬼大権現で、正面に大日如来の化身、左に虚空蔵菩薩の化身、右に不動明王の化身の三体が祀られた全国唯一の鬼神でその靈徳は参拝して初めて得られます。

靈驗あらたかな守護神として家内安全、無病息災、商売繁盛のご祈禱が行われます。



三鬼堂

伊藤博文公は三鬼大権現に参拝すると心が安らぎ、ご利益があると信仰していました。弥山本堂や三鬼堂の額は伊藤博文の直筆です。

5) 文殊堂と観音堂

文殊堂には知恵を司る文殊菩薩が祀られ、入学祈願のお参りが多く希望する学校名を書いた杓子が多数奉納されています。

観音堂は人々の苦悩を除き家内円満を司る観世音菩薩が祀られ、安産の仏様として多くの人々が参拝しています。

昭和二十年の枕崎台風ではこの谷が土石流の源になったと思われます。



文殊堂と観音堂

6) 不動岩と毘沙門堂

不動岩は大きな二本の石柱が大きな石を支えているので石の門柱と呼ばれています。

平成十三年(2001)の芸予地震のため一部崩れ落ちました。

昔の毘沙門堂は京都清水寺のように岩の上に井桁を組んで作った寺院でした。

その内部に祀られていた毘沙門天様の体内に千体にも及ぶ黄金の仏像が納められ、商売繁盛の神様として多くの人々に崇められていました。しかし明治四十年(1907)に堂内の灯明が原因で建物と仏像が全焼しました。その後巨大な不動岩の下に毘沙門堂が再建されていましたが、平成三年の台風19号で全壊して付近に小さな毘沙門天が祀られています。



7) 弥山展望台と休憩所 (弥山山頂 535m)

広島県は昭和三十五年に昔の展望台を壊し、高さ等に配慮しながら景観や史跡に考慮して水洗トイレを備えた展望台を作りました。山登りや弥山参りで疲れた人達がうどん、コーヒー、ビール等を買うことが出来ます。

三階の展望台に上がると、「日本三景の真価は頂上にあり」と言われているように南方はるか彼方に四国連山、西方には周防灘の紺碧の海、東北には大小様々な島が浮かび、現海上自衛隊の江田島も見えます。

島の周りには牡蠣の養殖いかだや白浜と青松のなぎさも楽しめます。

8) 干満岩、舟石と疥癬岩^{かいせんいわ}

干満岩の説明板には「岩穴の水は満潮の時には溢れ、干潮の時には乾く。不思議な穴で水は塩分を含み、弥山の七不思議のひとつ」と書いてあります。奥行き 27cm、深さが 5cm あり大人のこぶしが入る程の大きさです。傍には眼洗い地蔵があり目の不自由な人がこの潮水で目を洗って、お地蔵さんにお祈りすればご利益があると昔言い伝えられましたが衛生上の理由でその風習は無くなりました。干満岩の下に大きな岩があり、真下から見ると伝馬舟にも、船底にも見える舟石があります。甲板の上には帆の形をした雑木が生えており岩の下に地蔵尊が祀られています。(これが目洗い地蔵かどうか?)

弥山本堂に向けて更に下ると狭い道の上に苦むした大きな岩があり、これが疥癬岩^{かいせんいわ}です。

この岩に触れると皮膚病になり、皮膚病の人が触れると治ると言い伝えられている不思議な岩ですが今は信じる人はいません。霊験あらたかな弥山らしい話です。

9) 大日堂

このお堂は、永和二年(1376)弥山御堂神護寺として建てられた由緒ある寺院で、

本尊は金胎^{こんたいりょうぶ}両部の大日如来が祀られています。

古い棟札には弥山^{みどう}御堂神護寺と書かれていましたが明治二十年(1887)の火災で全焼して、大正九年(1920)に再建されました。再建にとも

ない須弥壇^{すゆみだん} (仏像を安置する台) の中央に安置されている不動明王座像は京都の仁和寺の真乗院より移座されたものです。



不動明座像の本体は100cm、^{こうはい}光背の高さは160cmあり平安中期^{かんこう}寛弘年間（1000）の作品と伝えられています。髪飾りは東福寺同聚院^{どうじゅいん}不動明王、台座文様は真正娛樂寺・阿弥陀如来立像、光背は法隆寺講堂・薬師三尊などと似ていると奈良大学の教授の「仏教にかんする文献」で論説されています。不動明王は平成五年(1993)に国の重要文化財に指定され、京都国立博物館内の美術院で二年間の歳月をかけて修理され現在は管理が行き届く大聖院の観音堂に祀られています。

10) 水掛け地蔵

弥山の鯨岩を通り抜けて少し石段を下ると石地蔵が祀られた祠があります。その側に井戸水が湧いており柄杓が置いてあります。水を汲んでお地蔵さんにかけて追善供養をするのが習わしになっています。



11) 四宮神社

紅葉谷の小高い丘にある石図造りの四脚鳥居をくぐると一間社流造り檜皮葺きの神社がありこれが四宮神社です。

例祭は旧暦の八月一日で夕刻になると町内の人達が「たのもうさん」と呼ばれる飾り付けた舟を持って四宮神社に集まります。

お祓いを受けた後、巖島神社周辺から大鳥居に向かってゆらゆらと舟が流れます。

ローソクが灯され波に揺れながら沖合に向かって進む風景は秋の風物詩になっています。

宮島は島全体が信仰の対象になっているため、田畑を耕すことが禁じられており、島に住む人達の農作物への感謝の気持は厚く、子供たちの健やかな成長を合わせて祈願する祭とされています。

「たのもうさん」と言う舟は町屋通りの宮郷ギャラリーや宮島民俗資料館にも展示されています。



たのもうさん



四宮神社

出典：宮島本、宮島弥山史跡巡り、弥山不消霊火堂、弥山登り